

足立健康友の会

かばら支部「ユース」

第43号
2012年2月16日
☎: 3605-5594
<http://kabara-tomonokai.kenwa.or.jp/>

笑顔あふれて「新春の集い」

客席と一体になり盛り上がる
120名参加



去る2月5日かばらデイサービスセンターにおいて「第36回かばら新春の集い」が賑やかに開催されました。寒さ厳しい中でしたが120人も参加者が集まり、地域の友の会の方々、職員が一緒に楽しい一時を過ごしました。来賓の方々からご挨拶をいただい



た後は恒例の演芸が披露されました。毎年、オープニングを飾る桜遊会のみなさんによる銭太鼓、南京玉すだれ。歌声サークル「こもれ



び」の合唱。小沼徳二さんによるサクソス演奏、馬越工さんのシャノン独唱。

東和仲良し会のみなさんは日本民謡を披露。派手やかな衣装に身を包んだ親子によるフラダンスなど、楽しい出し物で盛り沢山でした。

どのグループも新春の集いに相応しい華やかな演目ばかりで、客席の参加者は手拍子をしたり歌ったりと大いに盛り上がりました。私は始めて新春の集いに参加しましたが、友の会かばら支部は芸達者な方が多くて驚きました。

楽しい演芸の後は、お待ちかねの昼食です。用意された弁当の他に手作りの「ぬか漬け」盛り合わせは大好評。これが楽しみで参加された方もいらっしやったのではないのでしょうか。談笑しながらの昼食は終始笑い声が絶えませんでした。

友の会役員さんが早くから来て用意して下さいましたお茶でホッと



一息した後は健和会医療福祉調査室長の安達智則先生による記念講演が行われました。野田内閣が進めようとしている「税と社会保障の一体改革」がどのようなものかを様々な角度からお話下さり、参加者からも活発に質問が出



されました。

集い最後の「外れなし抽選会」

では今年92歳になられるご婦人が、初めて友の会に入り、新春の集いに初参加でお米が当たり大変喜んでいらっしやいました。今回は初めて参加された方も多かったです。私も初めて参加しましたが、友の会や地域の方々、そして職員が一丸となってこのような行事を成功に導くパワーが蒲原グループを支えているのだと思うことを実感しました。安達先生が最後に触れられたように、用があっても無くても地域の人々が気軽に診療所に集い、時には職員と交流することが理想だと思えました。

担当 池田 満穂

肺炎球菌ワクチン・接種できます

3月までは東日本大震災の被災地の高齢者優先でワクチンが届けられています。

しかし蒲原診療所でもワクチンを取り寄せ接種できるようになります。接種の希望者は診療所の看護師までご相談ください。

蒲原診療所看護師長 森倉明代

新年から笑顔にあふれ、かばら さわやかさん交流会開かれる

一月十四日、かばら診療所で手配り者と折込参加者さん二十一名が集まり、恒例の交流会が開かれました。

手作りの黒豆やお寿司の昼ごはんを食べながら、皆さんの自己紹介をして、ご苦労話や苦情も話されました。住所と名前と家が違って、マッシュョンの名前がない、ポストがない、探しまわってやっと思つた。など、本当にそのご苦労に感謝して頭が下がる思いでした。

診療所を代表して、大脇事務長



さんが挨拶し、さわやかさんがかばらグループと地域の接点になってくださいと訴えました。

またさわやかさんで古い人は誰かという話になり、なんと中川の中林さんが三十年になると聞いて皆驚きました。平野さんは八十四歳ですが、折込にも参加しただ元気に配っているそうです。

また新人の関口さんは、手配りで一軒ずつ回り、挨拶して友達が二人できて班会を開いているそうです。健康講座に参加して、栄養指導を知り受けてみたら、体重が

七kg減ったと嬉しそうに報告されました。七福神めぐりにも参加して、楽しかったそうです。その他健康のため配っています。と言う人も多くいました。

現在、さわやかさんは五十五名、少なくともいいので手配りできる人は申しこんで下さい。毎月第三木曜日、一〇時から折込を行っています。二時間位で、十四〜五人参加、おしゃべりしながら楽しくやっています。ぜひ参加してください

担当 田中 英人

故郷の明暗 「がんばろう日本」を考える

年末・年始は「雪の見える温泉で・・・」と言うことで今年も岩手県の花巻に行つて来ました。乗車した東北新幹線の列車が宇都宮を発つた辺りから車窓に以前見た光景が通り過ぎて行きました。

5月の連休に帰郷した時よりその数は明らかに減っています。ですが、まだ所々に見えます。ブルーストを被せた瓦屋根の家です。この光景を見て大震災のつめ跡が年を越そうとしているように思っています。

先の大震災が残したものは色々ありました。その中にスローガンもあります。その代表的なものは「がんばろう日本」ではなかったでしょうか。新幹線の新花巻駅に降り立った時は雪景色と共に「がんばろう東北」「がんばろう岩

手」と言うスローガンを書いた大きな看板も目に入りました。

人間が何か困難に直面した時、自分と周囲を奮い立たせ、同じ言葉で気持ちを分かち合うものとして「がんばろう」があると思えます。

私たちは「がんばろう」を色々な機会に仲間同士で使ってきました。

人が集れば何処かで「がんばろう」の言葉が沸き上がったものを見た。

「がんばろう・日本」「日本の力を信じてる」そのこと自体に何がしかの異論を挟む余地はないと思えます。未曾有の大震災に合った日本人の心情を一言でいえば、この言葉に尽きるとも言って良いから

です。その一方で「がんばろう日本」「日本はひとつ」の言葉に一呼吸置いて立ち止まる余裕を持ちたいとも思っています。

「がんばろう」と思っても、思うようにならない。身体が動いてくれない



民医連と友の会の機関誌「いつでも元気」は1カ月380円です。百円が被災地支援になります。乞うご購読！ 蒲原診療所窓口迄

群の人たちが必ずいると言う事実です。配偶者や親兄弟、逆縁で最愛の息子、娘、孫を津波で亡くした人たちがいます。福島原発事故で故郷を追われ、未だに帰ることが出来ない人もいます。このような人々が気落ちしている時「がんばろう」の言葉は励みになるより、頑張り切れない自分の不甲斐なさを嘆くことにもなり、その言葉が刃の様に胸に突き刺さる人がいることを知ることが大事だと思います。

かばらふれあい川柳、11年8月のKさんの句に高得点が集まりました。蒲原診療所グループの職員による投票の結果です。これを見て人生の先輩である地域の友の会員と若い職員の気持ちが何処かで通じ合っていたことを私はうれしく思いました。

「がんばれと言うは易しで胸いたむ」

担当 完

嶺岸宏